

生きていける賃金を出せ！ 希望者を全員、正社員にしろ！

CTS 職場ニュース

動労千葉（国鉄千葉動力車労働組合）
2021年12月28日

2年ぶりの時給引き上げが

 **たった 10円か！！**

CTSは12月21日、契約・パート社員の時給を改定し、来年1月1日から全事業所で一律10円引き上げることを発表した。

<千葉の最低賃金は2年で30円アップ>

時給の改定は2020年1月以来で、2年ぶりとなる。この間、千葉県の最低賃金は2020年10月（2円）、2021年10月（28円）の2度にわたって引き上げられ30円上がっている。

こうした中で動労千葉は、毎年春闘・秋闘（最賃の改定時期）に繰り返し時給の大幅引き上げを求めてきた。ようやく引き上げが行われたが、10円では最賃の上昇にまったく追いつかない。

●コロナ禍での労働強化

この2年間、コロナ禍で次々と新しい仕事が増える一方、CTSは、JR東日本の赤字を口実に新規採用をストップしている。どの事業所も要員不足が慢性化し、一人あたりの負担は増している。

にもかかわらず、繰り返し要求してきたコロナ危険手当もなし、ボーナスも実質的に減額されたまま、正社員のベースアップも2年間にわたって凍結されたままだ。

<CTSは生きていけるだけの賃金を出せ！>

この間、ガソリン代や食料品が次々と値上がりし、原油高などから電気代、ガス代も上がってきている。こんな引き上げ額では到底、物価高に追いつかない。

このままでは最賃に追いつかれる？！

2014年1月 → 2022年1月

<千葉県の最低賃金>

798円 → 953円

(+155円)

<CTSの時給（千葉地域の場合）>

920円 → 1040円

(+120円)

※最賃は8年で155円上がっているのに、CTSの時給は+120円。差がどんどん詰まりCTSの時給は社会的に陥没する一方。銚子・鴨川・館山（1月から980円）では、最賃ギリギリだ。

アメリカでは今年の秋、コロナが一息つくなかでの人手不足の状況で現場労働者が次々とストに立ち、労働条件の改善をかちとっている（裏面）。

●来春闘で労働条件の抜本的改善を！

CTSは生活できるだけの賃金を出せ！

来春闘で、労働条件の大幅な改善をかちとろう。CTSで働くすべての仲間は動労千葉に加入し、ともに闘おう。

米で清掃労働者がスト 時給 460 円引き上げ

闘えば
勝てる

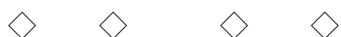
アメリカは今、劇的な労働運動の高揚局面にある。病院、食料品、郵便、清掃、輸送など、パンデミックの中で社会を最前線で支えてきたエッセンシャルワーカーが、全米的な「人手不足」の中で大幅な企業の譲歩、賃上げを勝ちとっている。



コロラド州のデンバー国際空港（全米で最も混雑する大空港のひとつ）で働く清掃労働者、約 350 人が 11 月 20 日、賃金引き上げと労働条件改善を求めてストライキに立ち勝利した。

● 2 割以上の賃上げ

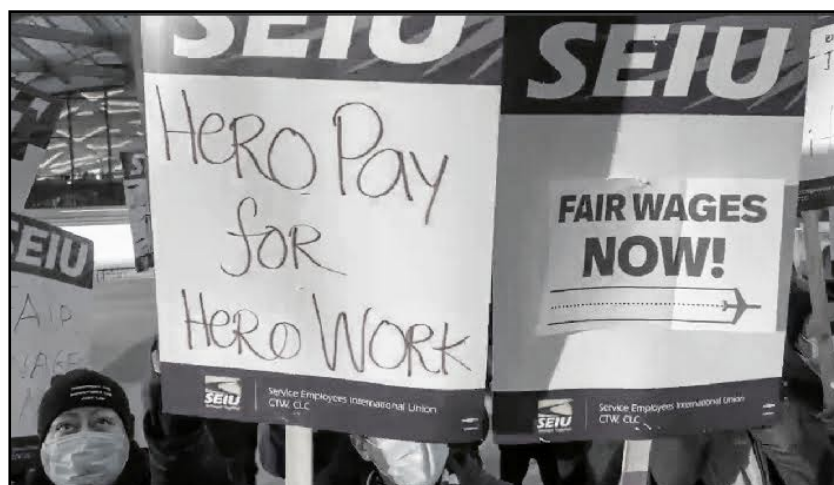
その結果、サービス従業員国際労働組合（SEIU）の地域支部は「歴史的な時給 4 ドル（日本円で約 460 円）の賃上げ」を含む労使合意を勝ちとったと発表した。現在の時給 19 ドル（約 2185 円）から 2 割以上の賃上げだ。休憩時間の増加、労働条件の改善も含まれている。



現場労働者が一致団結して闘えば、会社は譲歩せざるをえない。CTS でも大幅賃上げを勝ちとろう！



アメリカ・デンバー空港の清掃労働者がストライキ！
サービス従業員国際労働組合（SEIU）



アメリカではコロナ禍で「エッセンシャルワーカーはヒーローだ」ともてはやされてきたが、現場労働者は「今すぐ正当な賃金を！」「ヒーローにふさわしい支払いを！」のプラカードを掲げてストライキに立った